

# 活動テーマ 地域における社会資源としての法人機能等の提供 ～ソーシャルインクルージョンの実現をめざして～

## 茨城県 社会福祉法人 芳香会

〒306-0201 古河市上大野698 TEL. 0280-97-1027 FAX. 0280-97-1112

**取り組み内容のポイント** 社会福祉法人が有する資源を地域における社会資源として、「ソーシャルインクルージョン」を念頭に置きながら、地域住民の方がたに提供し、活用していただいている。

### 活動内容

- 活動開始年
  - ①平成23(2011)年10月
  - ②平成25(2013)年8月
  - ③平成23(2011)年11月
  - ④平成23(2011)年1月
- 活動の対象者
  - ①・②地域の薬物依存症者リハビリ施設の利用者
  - ③保護観察を受けている地域住民
  - ④地域の中学生
- 活動の頻度・時間
  - ①毎週1回
  - ②施設行事の際に随時
  - ③年3回
  - ④年1～2回程度

### 取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無 記載していない
- ②事業報告・計画への記載 記載している

### 取り組みを実施している施設の概要

法人として実施している。

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

- ①薬物依存症者リハビリ施設では、薬物依存で苦しんでいる地域住民に対し、地域の中で定期的に相談窓口を開設している。しかし、地域の住民感情等もあり、相談窓口を開設できる場所が宗教施設（教会等）に限定されてしまう実態がある。広く薬物依存で苦しんでいる方の悩みを受け止めたいとの思いに共感した。
- ②薬物依存症者リハビリ施設では、プログラムの一環として和太鼓の演奏を行っているが、発表の場が限定されてしまい、モチベーションを保つことが難しい実情にある。また、法人内施設の行事の際に演奏を披露していただくことにより、薬物依存症者のリハビリについて地域住民への理解を促す機会であるとも考えた。
- ③法務省では、保護観察対象者の改善更生や再犯防止、自己有用感や改善更生への意欲を高めるために公共施設の清掃や社会福祉施設等での介護補助等を行う「社会貢献活動」を実施している。その実施目的に賛同し、受け入れ施設が少ない実情もあり、活動の場を提供している。
- ④「障害のある人・ない人 分け隔てない共生社会へ」をめざしていくためには、次世代を担う生徒に対する教育が必要であると考えた。

**法人設立年**  
昭和45(1970)年

**法人実施事業**

①経営施設数合計：9施設

②経営施設・事業【種別毎の数】：

・養護老人ホーム	1か所
・特別養護老人ホーム	1か所
・介護老人保健施設	1か所
・障害者支援施設	3か所
・医療型障害児入所施設・療養介護事業所	1か所
・保育所	2か所

**法人の理念・経営方針**

**社 是** 福祉大家

**経営理念** 1. 高齢、障害児・者、児童を対象とした福祉事業の展開  
2. 地域とともに  
3. 惻隠の情

## 実施内容

- ①週に一度（毎週月曜日PM5：30～2時間程度）、法人内の「地域交流ホーム」内の相談室を開放し、相談窓口として使用していただいている。
- ②法人内の施設（高齢者施設）で行われる行事（夏祭り・敬老会）におけるアトラクションとして、これまで3回、和太鼓の演奏を披露していただいた。
- ③法人内の施設（養護老人ホーム・障害者支援施設×2か所）を受け入れ施設として保護観察所へ登録を行い、年に3回（6月・10月・2月）、活動の場を提供している。これまでに7回実施し12名の対象者の方に参加していただき、施設利用者とともにリサイクル活動や清掃活動を行った。
- ④法人内の障害者支援施設が所在する市内の中学校に出向き、「総合的学習（1・2年生）」の時間を使い、障害について理解していただくための基礎的な講話や、障害者による楽器・和太鼓の演奏、法人内の雇用障害者の体験談の披露など、プログラムを実施している。これまでに4つの中学校にて総勢684名の生徒にプログラムに参加していただいた。

## 活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

薬物依存症者リハビリ施設の方がたへ相談窓口の提供や和太鼓演奏の場の提供を通じ、まず施設利用者や家族が薬物依存症者リハビリ施設について認識できるようになった。また、職員が薬物依存症の方がたと接する機会を持ち、依存症に苦しむ方がたの苦悩や、社会の中で置かれている状況を理解できるようになった。

保護観察対象者への社会貢献活動の場の提供を通じ、職員が「更生」について考える機会を持つことができるよう

になった。また、対象者からは『お年寄りから「ありがとう」と言われて嬉しかった』等の感想も寄せられた。

「総合的学習」の時間を通じての障害者の啓発活動を通じて、中学生から「何があっても人はみんな同じなんだと思いました」との感想が寄せられた。

総じて、薬物依存症者や保護観察対象者、障害者への地域の方がたの認識、理解が進み、ソーシャルインクルージョンの実現に向けて前進していると感じられる。

## 今後の展開

地域には社会福祉法人の有する社会資源で充足できるニーズがまだまだ潜在化していると思われる。

この地域に潜在化しているニーズを把握するためには、法人としてさまざまな形で地域の輪の中に加わり、地域住民の方がたと交わることが必要であると思われる。

上記①～④の活動を今後も継続しながら、地域の輪の中に加わり、地域住民の方がたと交わることにより、ニーズを把握し、新たな活動を模索したい。

そして、このような公益的な取り組みが、今後の社会福祉法人に最低限必要なことと考える。

### 主な経費や財源及び人員など

- ※法人内の既存の資源を活用しているため、経費・財源ともになし
- 取り組みに係わった職員数 約20名  
（職種等：相談員・生活支援員・事務員・介助員）  
（雇用障害者）
- ※法人全体の事業規模  
（平成25年度決算の事業活動収入）2,824,931,000円



社会貢献活動



中学校総合学習



薬物依存症者リハビリ施設太鼓演奏